野沢温泉村幼保小中一貫教育・高校連携教育　　令和５年 ６月７日（通算 195 号）

山毛欅（ぶな）の子　野沢温泉学園だより第２号

～子どもたちが、ブナ（村木）の若葉のごとく、力強くたくましく伸びてほしいとの願いを込め～

令和５年度 野沢温泉学園 学園長・副学園長の紹介

学園長 野沢温泉小学校長 市村　一彦	「野沢温泉は本当にいいところですね。何枚も写真を撮りました。立派でいい学校（校舎）ですね。」と村を訪れた知人が私に言いました。そんなステキな野沢温泉に暮らす子どもたちが、この地域のすばらしさを学び、自分や村に対する思いを広げ深めることが学園教育活動の目標の柱です。「野沢温泉の給食はとてもおいしいと言われているんだよ」と児童に問いかけたら「そうなんですか、知らなかった。転校生は分かるかな」と返事がありました。この村の子どもたちを思い、おいしさを追求して作ってくれる人々が身近にもいます。この村の人々の思いや願いに触れる学習を大切に、野沢温泉学園の教育を進めていきたいと思います。
副学園長 野沢温泉中学校長 藤井　善章	4月よりお世話になっております、野沢温泉中学校長の藤井善章です。出身は中野市で、毎日、車で通っています。20 年ほど前にも野沢温泉中学校に勤務しており、不思議な縁を感じています。当時中学校で関わった方と、この2ヶ月間で再会する機会が数々あり、うれしい限りです。今年度は新型コロナウィルス感染症の位置付けが5類感染症となり、今までと変わらない活動ができるようになってきて、笑顔あふれて活動する子どもたちの様子が見られる毎日となっています。野沢温泉学園発展のため、皆様とともに歩んで参りたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。
副学園長 のざわこども園長 岸　香理	新年度がスタートして2ヶ月が経ち、初めて集団生活を送る子ども達も、泣き声から笑顔に変わり楽しく園生活を送っています。 昨年度まではコロナ禍ということもあり、小学校、中学校、保護者の方、地域の皆様との交流もなかなか難しいところがありましたが、今年度は行事なども一歩前進して行うことが出来そうです。野沢温泉学園として小中学校はもちろん地域の皆様との“出会い”を大切にしながら今年度進めていきたいと思います。よろしくお願いします。

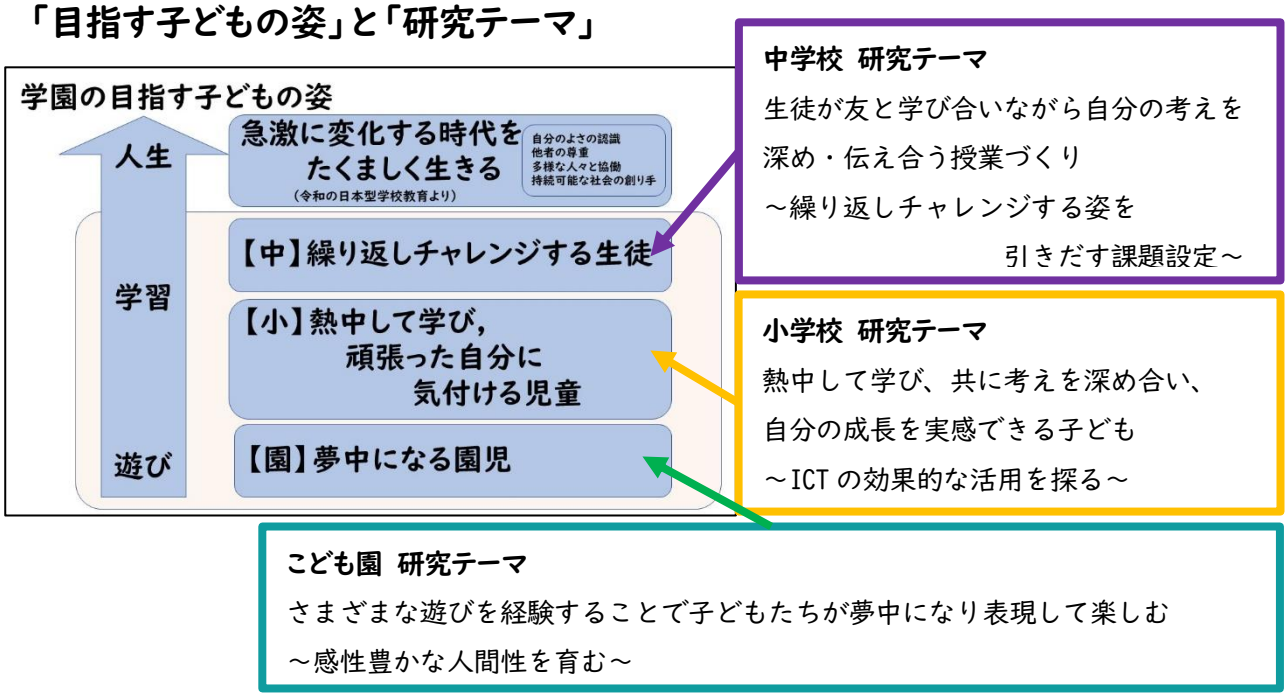
野沢温泉学園 令和５年度がスタート。

野沢温泉学園では、毎年 2 回の学園授業研究会を開催し、授業の質の向上を目指しております。今年度も東京学芸大学教職大学院准教授の渡辺貴裕先生に本学園の中心講師をお願いし、年２回（6 月と 11 月）の学園授業研究会でのご指導とご講演、そして夏休み期間中の職員研修会では、授業づくりについてご指導をいただきます。

令和４年度の研究では、学園として目指す「子どもの姿」を改めて全学園職員で確認することができました。今年度は、「目指す子どもの姿の具現化への取り組み」を大切にして「学習する子どもの視点に立った授業づくり」を進めます。

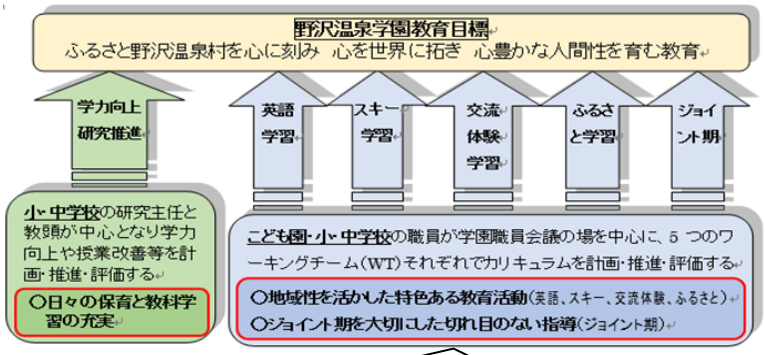
５月 11 日（木）の学園職員会では、３校園の研究主任が今年度の研究のテーマについて発表しました。３校園それぞれで研究を進めながらも、学園全体の教職員で子どもの学ぶ姿を語り合い、子どもの姿から私たち教職員も学んでいきます。

「目指す子どもの姿」と「研究テーマ」



ワーキングチームの取り組みの重点

野沢温泉学園教職員の中心的な活動として、５つのワーキングチーム（以下、WT）があります。今年度は、それぞれのWTの取り組みの重点を決めました。野沢温泉村という地域性を活かした教育活動を目指して参ります。



WT 令和5年度の取り組みの重点

英語学習	野沢温泉村を活かした学習活動の展開を目指す。
スキー学習	村の人々の願いや思いを考える場面を設定する。
交流体験学習	子どもが主体となって企画する場面を仕組む
ふるさと学習	支援センターやボランティアさんと学習のねらいを共有する。
ジョイント期	教師が入園・入学前の保育や教育から学び、子どもの学びの接続を意識する。

文責：小学校　平田 久貴